

あゆみ

2022年
被昇天号 Web版発行所
カトリック高幡教会
あゆみ編集委員会
TEL042(592)2463

聖母マリアの被昇天

管理司祭 ホルヘ・マヌエル・
マシアス・ラミレス

高幡教会の皆様

私は四月にコロナ禍の中で教会管理者として任命されました。この状況の中では多くの活動が出来ませんが、皆様と一緒に信仰の道を歩むことが出来るので私は喜び感謝しています。

さて、私たちの共同体の守護者である聖母マリアの被昇天の祭日にあたり、初めてあゆみ記事を書きました。教会の伝統では、「聖母マリアの被

昇天は、神の救いの計画の一部である」と考えています。

その理由は、神の子が使命を果たすために、マリア様は、マリア様にしか出来ないこと、マリア様以外の他の誰にも出来ないことを果たしたからです。マリア様の被昇天は、マリア様の復活を意味しています。

教父たち、たとえば、聖アムブロジオや聖エビファニアなどは、西暦七三三年頃に、次のように伝えていました。

「イエス様は、ご自分の母親であるマリア様を、天に連れて行かれる時に、次のようにおっしゃった。『私がいるところに、あなたもいることが必要です。あなたの息子と、息子の母親であるあなたとは、分かれることは、出来ないからです』」

(Hom. 3 in Dormitionem: Pg. 98, 360)

教父たちが、このように伝える基になっている考えは、「イエス様は真の神であり、そしてイエス様はマリア様の胎内にてマリア様の血を受けたので人間としてこの世に生まれることができた」ということです。

五世紀の時代にメリトンという人がいました。彼が書いた本の中に、イエス様とペトロと弟子たちの面白い話があります。

キリストは、ご自身の母親であるマリア様についてペトロと弟子たちに尋ねました、そして、彼らは次のように答えました。

「主よ、あなたはあなたの尊い住まいとしてあなたの僕マリア様を選んだのです。従って、死を滅した後、あなたは栄光の中で全てを治めます。あなたがあなたの母親であるマリア様の体を復活させ、あなたと一緒に天国に居るように、あなたがマリア様を天国へ連れて行かれることは、あなたの僕である私たちには、素晴らしいことだと思います」

(De Transitu V. Mariae, 16: Pg. 5, 1: 238)

ここに書かれていることは、次のことを説明しています。マリア様が神様の母親であるという事はマリア様の胎内は主の尊い住まいであったということなのです。

これは、マリア様のからだと魂と霊は罪も汚れも全くない、ということを表しています。このためにマリア様は、死後の滅びに委ねられることなく天の栄光に上げられた、つまり神様はマリア様を復活させたのです。

第二バチカン公会議の教会憲章の五十九番に昇天について次のことが

書かれています。「実に神は、キリストによつて約束された霊を注ぐ前に人類の救いの神秘を正式に現すことをよしとされなかつた。そのため、使徒たちは聖霊降臨の日の前、『彼らは皆、婦人たちやイエスの母マリア、またイエスの兄弟たちと心を合わせて熱心に祈っていた』。マリアも、すでにお告げのとき自分を覆つた聖霊の賜物が与えられるように祈り求めた。

最後に、原罪のあらゆる汚れから免れ守られた無原罪の処女は、地上での生涯を終えてから、肉体、靈魂ともども天の栄光に引き上げられ、主から、すべてのものの元后として高められた。それは、マリアが、主の主であり、罪と死に対する勝利者である自分の子に、より完全に似た者となるためであつた。」

マリア様のからだも靈魂も天の栄光に上げられたのは人類の救いの為に神の子を胎と心で受けとめたからです。全人類が神の国に入るために、マリア様は神の子の母となられました。被昇天の神秘は私たちが神様の栄光に入る為に聖なる者となる為の主からの呼びかけです。マリア様は、息子である神の子、死と復活に直接深く関与しているのて、私たちが希望している復活を、神様、聖母マリアの為、聖母マリアが亡くなられた時に実現なさいました。

天国から、マリア様が、ご自身の息子である御子と一緒に私たちを守っていてくださり、私たちを待っていてくださっていることを信じて共同体として一緒に信仰の道を歩みましょう。✠

教会委員会だよ

教会委員会委員長

四月に辻神父様、ホルへ神父様をお迎えして、はや四ヶ月が経とうとしています。高幡教会に起こる変化に主の御心を感じとり、み旨にかなうことが出来るように、祈り、歩んでいきましよう。

それでは、四月からの高幡教会の歩みをお知らせします。

●四月九日(土)・十日(日) 受難の主日

地区毎にミサを割り当てて、土曜日午後四時、日曜日午前九時半、十一時半の三回のミサを行いました。

●四月十六日(土)・十七日(日) 復活夜祭・復活の主日
復活徹夜祭では、二名の洗礼式が、復活の主日では、午前九時半のミサで、一名の受入式が、午前十一時半のミサで、一名の堅信式がそれぞれ行われました。三回のミサは申込制でした。また、復活の主日の午後には教会学校の入学式・始業式があり、三人の新入生と、韓国から留学に来ている大学生一人をお迎えしました。また、ルカ神父様のお別れ会となりました。



洗礼式の様子

コロナ禍はいまだ収束が見えていませんが、高幡教会はその出口を指して歩んでいます。皆さんと手を携え、希望の光となるようにお祈りいたしましょう。



幼児洗礼式後、神父様と一緒に

- 四月二十四日・五月八日
それぞれ、ホルへ神父様、辻神父様の、高幡教会の最初の主日のミサをあげていただきました。
- 五月十四日(土)午前十時 保護聖人さつきの后聖マリアの記念ミサ
保護聖人を記念して、ミサを行いました。
- 六月十九日(日)午前十一時半ミサ
ミサの中で五人の子が初聖体を授かりました。
- 七月十日(日)午後一時
第一回準備会(行事・グループ活動の再開に向けた)を開催しました。
- 七月二十四日(日) 午前十一時半ミサ
ミサの中で一人の子の幼児洗礼式が行われました。

教会の六月の典礼カレンダーにはキリストの聖体の祝日があります。毎年、ご聖体を初めて頂くことが出来る子供たちはいるのかしらと、誰しもが心配されるのではないでしょうか？コロナ禍のミサでは子供たちの姿を見かけることがなくなり、高幡教会の信徒の皆さんが心配されるのも無理ありません。(教会学校は月に一度開催、子供ミサも行われていますが、現状は主日のミサには与らせていません)この二年間はそんな子供たちも月一度の教会学校での聖書のお勉強を続けてきました。大人リーダーであるM氏、K氏、M氏の三つ越しされるまでメルセス会のシスター笠松が、子供たちを指導してくださいました。ゆつくりと長い時間をかけて子供たちに神様のことば、彼らの生活にも神様と深く繋がっていることを教えてくださいました。今年もお勉強は続きますが、晴れて今年五名の子供たちが初聖

初聖体

おめでとうございます

シエナのカタリナ R・H



ミサ中、神父様からお祝いを受ける

体のお祝いを授かることができました。六月十九日(キリストの聖体の祝日)に、I君(マルコ・ミカエル)、K君(ミカエル)、Sさん(マリア)、M君(フランシスコ)、Yさん(エリザ)、以上五名の子供たちが、高幡教会の信徒の皆さんの祝福を受けて初めてのご聖体を授かることが出来ました。その前日にはホルへ神父様による初聖体を受ける子供たちのための黙想会を開いてくださり、典礼委員の方々には数日前から準備をしてくださって当日日本番を迎えることが出来ました。ことを感謝申し上げます。子供たちのご家族の皆さまにとっても大きな喜びであり、教会家族

の一員となった子供たちは教会にとってもかけがえのない素晴らしい存在です。シスター笠松からもお祝いのお手紙が届きました。初聖体ミサに与ることが出来なくて大変残念に思われていますが、いつかまた子供たちを連れてシスター笠松に会いに行けたらと思っています。これからどうぞ教会の子供たちを見守ってください。

教会学校より



夏真つ盛り！

夏真つ盛りの八月四日(木)に教会学校で夏まつりを行いました。

新型コロナウイルス感染症は高齢者に命取りの病気であり、コロナ禍の中で、本来手を繋いでいて欲しい子供たちと年配の方々完全に引き裂かれてる事に悲しみを覚ええます。コロナ禍は、さらに三年連続夏キャンプ中止という子供たちにとって悪夢のような事態を引き起こしています。冗談ではなく、自分が小学生だった頃を思えば、三年間もキャンプが無いなんて、とても耐えられる話ではありません。そんなとき頼



れるのが、子供の心を持った大人、教会学校のリーダーです。育成のEさん、Mさんが練りに練ったプランは、「夏まつり」(飲食厳禁)。どんな天気でもいいように教会を使って、四つのゲーム「ストラックアウト」「魚釣り」「水鉄砲射的」「ペットボトルボウリング」を全力で遊ぶおまつりです。

コロナの影響で残念ながら来られなくなってしまう子供たちもいましたが、八月四日(木)に無事決行出来ました。久しぶりに気温が低く連日の猛暑から開放された当日、集ま

つた子供たちは思う存分全力をふるい、遊ぶことを満喫していました。あれも出来ない、これもダメ。コロナ禍ではあらゆる事に制限がかかってきます。でも考えて考えて出来る事を探した結果は、今回のイベントに結びつきました。無理をせず、今出来る事から始めてみる、それは今とても大切なことだとしみじみと感じます。応援し手伝ってください。ホルへ神父様ほか皆様に感謝すると共に、この喜びを教会の皆さんと直に分かち合える日が来ることを祈り続けたいと思います。

◆高幡教会のミサ時間◆

ミサ後配布された「お知らせ」をご覧ください。以下のホームページでも確認できます。

◆高幡教会ホームページのURL◆

<https://www.cctakahata.jp/>
Web版は個人名を変更しています。